

「必修領域」開設実例

<大学名>

○長崎大学	1
○熊本大学	3
○鳴門教育大学	5
○日本大学	6
○玉川大学	11
○放送大学	13

平成25年度		h002	
講習の区分	教職についての省察並びに子どもの変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項(必修)	講習時間数	12時間
講習の名称	学校を巡る教育事情及び子どもの変化に対応した取組	講習形態	講義
開設者	長崎大学	定員	110名
開設日/時間	1日目)平成25年6月1日(土) / 8:55~16:30 2日目)平成25年6月2日(日) / 9:00~16:30		
会場	長崎県教育センター(大村市) 別館 講堂		
履修認定対象職種	教諭と養護教諭	主な受講対象者	全学校種
担当教員(講習代表者) / Eメールアドレス/TEL 担当教員: 呉屋 博			
担当教員(分担担当者等) 呉屋 博(教育学部)、井口 均(教育学部)、江頭明文(地域教育連携・支援センター) 柳田泰典(教育学部)			
講習のねらい/講習方法/講習到達目標 講習のねらい: 学校教育を巡る状況、教育政策の動向、子どもの生活の現状、教育における連携・協力の在り方について学習し学校教育の向上につながる知見を深める。 講習方法: 各担当講師が3時間ずつ講習し、担当講師の分野別に各40分間の筆記試験を行う。プリント資料を配付する。 講習到達目標: 学校教育を巡る近年の状況変化について理解する。子どもの生活の変化について理解する。教育行政の動向について理解する。家庭・地域社会等との連携・協力の在り方について理解する。カウンセリングマインドに基づく指導について理解する。			
講習内容(概要) / 講習計画(時間毎の講習内容を含む) / キーワード 講習内容(概要) 教職についての省察(学校を巡る状況変化、専門職たる教員の役割)、子どもの変化についての理解(子どもの発達に関する課題、子どもの生活の変化を踏まえた適切な指導の在り方)、教育政策の動向についての理解(学習指導要領改訂等の動向、その他の動向)、学校の内外における連携協力についての理解(各種課題に対する組織的対応の在り方、学校における危機管理上の課題)、の4つの事項について考察する。			
講習計画・内容 平成25年6月1日(1日目)			
内容等	時間	担当教員	
オリエンテーション	8:55~9:00 (5分)	呉屋 博	
講義1【教職についての省察】(休息20分を含む)	9:00~11:40 (160分)	呉屋 博	
筆記試験1	11:40~12:20 (40分)	呉屋 博	
昼休憩	12:20~13:10 (50分)		
講義2【子どもの変化についての理解】(休息20分を含む)	13:10~15:50 (160分)	井口 均	
筆記試験2	15:50~16:30 (40分)	井口 均	
平成25年6月2日(2日目)			
内容等	時間	担当教員	
講義3【教育行政の動向について】(休息20分を含む)	9:00~11:40 (160分)	江頭明文	
筆記試験3	11:40~12:20 (40分)	江頭明文	
昼休憩	12:20~13:10 (50分)		
講義4【学校内外での連携協力についての理解】(休息20分を含む)	13:10~15:50 (160分)	柳田泰典	
筆記試験4	15:50~16:30 (40分)	柳田泰典	

キーワード (学校経営参画) (カウンセリングマインド) (学習指導要領) (危機管理)	
成績評価の方法	成績評価は、各講習担当者が行う試験の成績や講習中の課題への取組等から総合的に判断します。
成績評価の基準	成績評価は、到達目標達成点を100点とし、総合点で60点以上を合格とします。
履修認定の方法	成績評価の総合点で合格点に達した受講者に対して履修認定します。
教科書・教材・参考書	指定図書はありません。
各自で準備するもの	なし
受講上の注意	1. 遅刻は原則として認めません。 2. この講習は、12時間(2日間)連続して受講しなければ認定されません。

h002

科目コード	11003	開設講座名	教育の最新事情	
会場	熊本大学 (熊本市)		開設日	平成 25 年 7 月 6 日～ 平成 25 年 7 月 7 日
時間数	12 時間	受講定員	60 人	受講料 12,000 円
講習内容：				
1) 今日の子どもをめぐる状況に目を向けつつ、教育思想史を手がかりに、人間の自己完成と教育の使命等について考察する。 2) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、知識・技能を活用する学習活動や意欲を喚起する学習指導についての理解を深める。 3) 社会構造の変化に伴う発達の様相の変化、自立に必要な能力の変化、絆の消失とそれらへの対処法について理解を深める。 4) ソーシャルワークの原理・原則を理解し、ソーシャルワーク技法を用いた児童・生徒・保護者支援について学ぶ。				
7 月 6 日 (土) 午 前 9:00 5 12:10	講習テーマ	人格と教育	担当者	東谷 孝一(熊本保健科学大学)
	講習の到達目標及びテーマ： 今日の子どもをめぐる状況の変化に目を向けながら、教育に携わる人たちにとっての課題を浮かび上がらせる。教育思想史に手がかりを求め、教育の本質・目的を反省しながら、現在の子どもの実態に応じた成長の支援のあり方を考える。			
	講習の概要： 1. 子どもをめぐる状況の変化に目を向け、教育に携わる者にとっての課題を浮かび上がらせる。 2. 教育思想史に手がかりを求めながら、教育の本質・目的について反省する。 3. 人格の尊厳とヒューマンイズムの教育思想について考察する。 4. 愛における人間の完成と教育における愛の重要性について考察する。			
	形態	講義とグループ討議		
	テキスト	当日、資料を配布する。	※事前準備要否	否
	評価： 修了認定のための筆記試験(100点満点)を、講習時間内に30分程度で実施する。			
	講習受講希望者への事前連絡： 特になし。			
7 月 6 日 (土) 午 後 13:10 5 16:20	講習テーマ	今求められる学力と学習指導の改善	担当者	根本 まり子(熊本県立教育センター)
	講習の到達目標及びテーマ： 平成 20 年改訂の学習指導要領の基本的な考え方と今求められる学力について、改正法令や国の審議会答申等を基に理解を深める。また、学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の改善、特に、知識・技能を活用する学習活動や意欲を喚起する学習指導について理解を深める。			
	講習の概要： 1. 学習指導要領の基本的な考え方と今求められる学力と学習指導の改善について資料から学び、自己(自校)の課題について考える。 2. 知識・技能を活用する学習活動や意欲を喚起する学習指導について授業アイデア例の提供と、演習やグループ協議を通して理解を深める。			
	形態	講義、演習、グループ協議		
	テキスト	当日、資料を配布する。	※事前準備要否	否
	評価： 修了認定のための筆記試験(100点満点)を、講習時間内に30分程度で実施する。			
	講習受講希望者への事前連絡： 特になし。			

7 月 7 日 (日) 午 前 9:00 5 /2=10	講習テーマ	子どもの変化についての理解	担当者	知久馬 義朗 (教育学部)
	講習の到達目標及びテーマ： 社会構造の変化に影響されて生じてきた発達の様相の変化を把握する。また、人間同士の絆が消失する原因の把握、人間が自立するのに必要な能力の変化の把握、その上での対処法を考える。			
	講習の概要： 以下の諸点の考察と相互の関係づけを行う。 1. 心身の発達に及ぼす文化と流行の影響 2. 価値の喪失と絆の消失と自己の曖昧化 3. 社会の高度産業化によって求められる能力 4. 少年期の課題と青年期の課題の違い			
	形態	講義		
	テキスト	当日、資料を配布する。	※事前準備要否	否
評価： 修了認定のための筆記試験（100点満点）を、講習時間内に30分程度で実施する。				
講習受講希望者への事前連絡： 特になし。				
7 月 7 日 (日) 午 後 13:10 5 /6=20	講習テーマ	教育現場におけるソーシャル ワーク技法の活用	担当者	永野 典詞 (中九州短期大学)
	講習の到達目標及びテーマ： 1. 教育現場におけるソーシャルワーク技法を用いた支援の必要性・重要性を理解し、ソーシャルワーク技法の活用法と問題への対応策を習得する。 2. 児童・生徒の対人関係構築支援、コミュニケーションスキルの向上を目指した指導の在り方を学ぶ。 3. 学校と地域社会・保護者との良好な関係性構築及び、社会福祉と学校教育の連携拡大を目指すため、他専門職種との連絡調整及びコーディネート機能について学習する。 4. 学校内における危機管理について、生徒、児童への適切な対応を習得する。また、校内外の安全確保のための方策を学ぶ。			
	講習の概要： 1. ソーシャルワークの基礎理論に関する講義と演習により、地域社会や保護者との良好な関係性を構築すること、かつ他専門職種との連絡・コーディネート機能について系統的に学ぶ。 2. 児童・生徒の対人関係を構築するためのコミュニケーションスキルを身に付けるための方法を学ぶ。 3. 学校内における危機管理として不適応な行動をとる児童、生徒への対応についてソーシャルワーク技法を用いた支援・指導の実際を理解する。また、安全確保として、学校と地域との関係性について学ぶ。 4. 演習では教育現場での児童、生徒や保護者との関わりについて、グループワークにおいて議論を深め問題解決の糸口を探る。			
	形態	講義及び演習		
	テキスト	当日、資料を配布する。	※事前準備要否	否
評価： 修了認定のための筆記試験（100点満点）を、講習時間内に30分程度で実施する。				
講習受講希望者への事前連絡： 特になし。				

平成25年度鳴門教育大学教員免許状更新講習概要

必修領域	
講習の区分	教職についての省察並びに子どもの変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項
講習の名称	教育の最新事情
受講者定員	150人
受講対象者	全教員
開設日	平成25年7月6日～平成25年7月7日
講習の形態	主として講義
講習時間	12時間
講習会場	鳴門教育大学 講義棟 1階 B101講義室、2階 B201講義室 (予定)
担当講師	鳴門教育大学 大学院 学校教育研究科 教員 8名 (現在調整中)
受講料	12,000円
講習の内容	教育の最新の事情の4つの柱である「教職についての省察」「子どもの変化についての理解」「教育政策の動向についての理解」「学校の内外における連携協力についての理解」を更に8科目に分けて、専門領域に近い講師を配置し、より実践的・専門的な内容を提供することにより、受講者の教育観・指導観・学校観等に揺さぶりをかけるような講習とする。
講習のねらい	今日的な教育の最新事情を、総合的・専門的に学ぶことにより、これまでの自らの教職の歩みを振り返りつつ、これからの新たな10年に向けた使命と役割について認識を深め、子ども理解力、指導力及び学校改善への意欲の向上を図る。
講習到達目標	次の事項について理解し、説明することができる。 ① 学校を巡る近年の状況の変化 ② 教員・学校に対する国民の期待 ③ 子どもの発達に関する最新の科学的知見の概要 ④ 子どもの生活の変化を踏まえたコミュニケーション・指導の在り方 ⑤ 学習指導要領の改訂の動向等 ⑥ 教育改革の動向の概要 ⑦ 様々な問題に対する組織的対応の必要性 ⑧ 学校における危機管理の必要性
講習スケジュール	平成25年7月6日～平成25年7月7日 第1日目 8時50分～ 9時00分 オリエンテーション 9時00分～10時30分 講義 10時40分～12時10分 講義 12時10分～13時00分 昼食休憩 13時00分～14時30分 講義 14時40分～16時10分 講義 16時20分～17時00分 履修認定試験(4問から1問解答) 第2日目 9時00分～10時30分 講義 10時40分～12時10分 講義 12時10分～13時00分 昼食休憩 13時00分～14時30分 講義 14時40分～16時10分 講義 16時20分～17時00分 履修認定試験(4問から1問解答) 17時00分～17時10分 事後アンケート、連絡事項
履修認定試験の方法	筆記試験
成績評価	成績評価は、講習の担当者が作成した試験の成績から判断します。 履修認定試験の結果、受講者の理解が到達目標に達したと認める場合は成績審査に合格した者としてますが、その際の評価は60点以上の採点をもって行います。
持参するもの	筆記用具
その他	受講申込みについては、「募集要項」を参照してください。

平成25年度教員免許状更新講習時間割〈必修領域, 選択領域〉

時間	区分, 曜日, 講習タイプ	必修領域				選択領域(教科)		選択領域(共通)	
		8月1日(木)		8月2日(金)		8月5日(月)		8月6日(火)	
		12時間講習(3時間講習×4)				6時間講習		12時間講習(6時間講習×2)	
9:00- 9:10	10分	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス		ガイダンス	
9:10-12:30	200分 (※休憩20分を含む)	①組 A-1	②組 B-2	①組 C-1	②組 D-2	講習番号3-A 講習番号3-B 講習番号3-C 講習番号3-D 講習番号3-E 講習番号3-F 講習番号3-G	講習番号4-A 講習番号4-B 講習番号4-C 講習番号4-D 講習番号4-E 講習番号4-F 講習番号4-G 講習番号4-H	講習番号5-A 講習番号5-B 講習番号5-C 講習番号5-D 講習番号5-E 講習番号5-F 講習番号5-G	
12:30-13:15	45分	昼休み		昼休み		昼休み		昼休み	
13:15-13:25	10分	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	昼休み		昼休み	
13:25-16:45	200分 (※休憩20分を含む)	①組 B-1	②組 A-2	①組 D-1	②組 C-2	講習番号3-A 講習番号3-B 講習番号3-C 講習番号3-D 講習番号3-E 講習番号3-F 講習番号3-G	講習番号4-A 講習番号4-B 講習番号4-C 講習番号4-D 講習番号4-E 講習番号4-F 講習番号4-G 講習番号4-H	講習番号5-A 講習番号5-B 講習番号5-C 講習番号5-D 講習番号5-E 講習番号5-F 講習番号5-G	
16:45-17:00	15分	休憩		休憩		休憩		休憩	
17:00-18:00	60分	試験		試験		試験		試験	
18:00-18:15	15分							事後評価記入(全員)	

(注意)

- ・ 講習教室については, 後日, 掲載します。
- ・ 必修領域の講習は, 2クラスに分けて実施します。①組は受講者ID末尾奇数の方。②組は受講者ID末尾偶数の方。
- ・ 各講習のガイダンスは, 講習実施教室で行います。
- ・ 事後評価票の記入は, 講習最終日に全員お集まりいただいた後, 実施します。

平成25年度日本大学教員免許状更新講習シラバス

講 習 名	教育の最新事情		
講 習 テ ー マ	学校の内外における連携教育についての理解 (A)		
時 間 数・講 習 日	3時間 / 8月1日(木)午前 3時間 / 8月1日(木)午後	講 習 形 態	講義および演習または発表
主 な 受 講 対 象 者	中学校, 高等学校教諭	受 講 区 分	必修領域
講 師	佐藤晴雄 教授(文理学部)		
キ ー ワ ー ド	学社連携, 学校支援ボランティア, 学校評議員, 学校評価, 危機管理, 地域教育力		
講 習 の 達 成 目 標	○様々な問題に対する組織的対応の必要性について, 校内外での自らの役割と関連づけながら理解し, 説明することができる。 ○学校における危機管理の具体的な課題について, 近年の動向を踏まえて理解し, 説明することができる。		
講 習 の 概 要	学校と地域社会との連携の意義について考え, それに関する先進的な実践事例を取り上げながら連携の具体的な方法を学べるようにする。特に, 学校支援ボランティア活動, 学校支援地域本部事業, コミュニティ・スクール制度(地域運営学校), 学校関係者評価, 地域・家庭に対する情報提供, 保護者への対応などについて取り上げていきたい。また, 学校の安全管理についても取り上げながら, 今後の開かれた学校経営の在り方を考察していく。		
講 習 計 画	1. 学校と内外との連携との意義 2. 学校と保護者・地域との連携の事例研究 (先進校の動画・スライド上映) 3. 学校と地域連携の課題 (学校支援ボランティア, 学校評議員, 学校評価など) 4. 地域連携と学校の危機管理 5. これからの学校経営改善の方向性		
成 績 評 価 の 目 安	到達目標への理解度50%以上, および受講態度		
教 材・参 考 文 献	<購入必須>教材 佐藤晴雄著『学校を変える 地域が変わる』教育出版 ※予習し, 当日持参してください		
受 講 者 に 望 む こ と	遅刻厳禁		
備 考	受講者には, 適宜, テーマに関する事例等の紹介・発表を求められることがある。発表を希望する者は, 事前に準備した上で, 当日積極的に申し出て欲しい(発表した場合は「成績評価」に加味する)。		

日本大学

平成25年度日本大学教員免許状更新講習シラバス

講習名	教育の最新事情		
講習テーマ	子どもの変化についての理解 (B)		
時間数・講習日	3時間 / 8月1日(木)午前 3時間 / 8月1日(木)午後	講習形態	講義
主な受講対象者	中学校, 高等学校教諭	受講区分	必修領域
講師	篠竹利和 教授(文理学部), 齋藤慶典 准教授(文理学部)		
キーワード	青年期の発達 発達障害		
講習の達成目標	①青年期の発達の特徴と, 近年の社会的・心理的環境の変化が子どもに与える影響について理解する。②発達障害に対する特別支援教育に関する事項を含め, 子どもの発達に関する最新の心理学知見の概要を理解する。		
講習の概要	①近年の子どもを取り巻く環境の変化について概説し, 青年期の生徒に与える影響と問題点について考える。②発達障害に関する新しい知見を概説する。実際の事例に基づいた典型(架空)事例を導入し, その支援において主眼とするべきポイントについて考える。		
講習計画	<p><前半: 齋藤担当> 子どもを取り巻く環境の変化, 青年期の発達の特徴について解説し, 青年期に起こりうる問題についての基本的な対応方法を心理学的視点から検討する。</p> <p><後半: 篠竹担当> 学習障害(LD)や注意欠陥/多動性障害(AD/HD)を含む発達障害に関する新しい知見を概説する。その上で, 講義用に作成した心理臨床実践における典型事例を提示し, その事例のアセスメントや支援方針について検討する。</p>		
成績評価の目安	講習達成目標の理解度(50%以上, 白紙は不合格), 受講態度も評価する。		
教材・参考文献	プリントを作成し, 配布する。		
受講者に望むこと	遅刻20分以上は入室不可とする。		
備考			

日本大学

平成25年度日本大学教員免許状更新講習シラバス

講習名	教育の最新事情		
講習テーマ	教育政策の動向についての理解 (C)		
時間数・講習日	3時間 / 8月2日(金)午前 3時間 / 8月2日(金)午後	講習形態	講義
主な受講対象者	中学校, 高等学校教諭	受講区分	必修領域
講師	関川悦雄 教授(文理学部)		
キーワード	教育改革の流れ、改正教育基本法、学校教育法、改訂学習指導要領		
講習の達成目標	教育政策の動向全体にわたる理解を深める		
講習の概要	<p>■教育基本法や学校教育法などの全面改正の要点・背景や中央教育審議会の最新答申書の概略・方向性などについて、現在の学校教育の現状を踏まえつつ概説・検討する。</p> <p>■中学校と高等学校の学習指導要領における直近の改訂の経緯・趣旨・要点などに言及し、教科、道徳・特別活動などの取扱の改善についても若干概説・検討する。</p>		
講習計画	<p>1 近年の教育改革の流れ</p> <p>2 教育基本法・学校教育法の改正ポイント</p> <p>3 中・高学習指導要領の改訂の経緯・趣旨・要点等</p>		
成績評価の目安	講習の目標は「教育政策の動向全体の理解」にあり、その理解度が50%以上で合格。白紙答案は不可。		
教材・参考文献	プリントを使用予定		
受講者に望むこと	遅刻20分以上は不可となります。		
備考			

日本大学

平成25年度日本大学教員免許状更新講習シラバス

講 習 名	教育の最新事情		
講 習 テ ー マ	教職についての省察 (D)		
時 間 数・講 習 日	3時間 / 8月2日(金)午前 3時間 / 8月2日(金)午後	講 習 形 態	講義・グループ討論
主 な 受 講 対 象 者	中学校, 高等学校教諭	受 講 区 分	必修領域
講 師	杉森知也 准教授(文理学部)		
キ ー ワ ー ド	教職の専門職化論, 教師像の国際比較, 教職アイデンティティ		
講 習 の 達 成 目 標	①学校と教師をめぐる状況の変化について, 客観的に説明することができる。 ②自らの教師像・教育観と①の内容とを関連させて, 今後10年の教育実践に関する自己目標を具体的に設定し, その目標の持つ意味(理由)を説明することができる。		
講 習 の 概 要	本講習の目的は, これまでの教員生活を省察し, 今後10年の自らの「教師像」を再構築するきっかけ作りにあります。自らの教育観について, 「過去」と「現在」を振り返り, これまでの教職経験と現在の自己の教育観との関係性を, グループディスカッション等を通して意識化します。また, 教師像の再構築をする前提として, 学校・教師をめぐる国内の状況の変化や国際的な動向について講義をおこないます。		
講 習 計 画	はじめに, 自らの教職経験の振り返りをおこなうために, ワークシートを作成します(個人作業)。続いて, このワークシートをもとに5~7名程度のグループで討論をおこないます。この討論は, 自他の教職経験や価値観を交流する貴重な機会となるので, 積極的に質問して他者の意見を深掘りして聴くことを求めます。この討論の中から, 学校・教員をとりまく環境の変化などを抽出し, 参加者全員で共有していきます。続いて, 価値多様化社会の中の教師, 教師像の比較, OECDの政策提言などについて, 研究成果や諸資料・データに基づきながら講義をおこないます。		
成 績 評 価 の 目 安	達成目標の理解度が, 50%以上であること(白紙は, 不合格)。このほか, グループ討論等への積極的な参加姿勢(予習を含む)を加味して, 総合的に評価します。なお, 20分以上の遅刻は, 欠席として処理しますので, 注意してください。		
教 材・参 考 文 献	講義用のプリントは, 授業時に配布します。		
受 講 者 に 望 む こ と	これまでの教職経験や理想とした教師像の変遷について, 特に実践における困難・苦労とその解決のための工夫とを関連させて振り返っておくと, 講習内容の理解がより深まります。		
備 考			

日本大学

必修領域:教育の最新事情

開講日	平成24年8月1日(水)～8月2日(木)	使用教室	A組: 大学8号館423教室 B組: 大学8号館424教室
担当講師	森山 賢一(教育学部 教授)・田原 俊司(教職大学院 教授) 坂野 慎二(教育学部 教授)・福本 みちよ (通信教育部 准教授)		
主な受講対象者	小学校教諭、中学校教諭、高校教諭		
講習の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職についての省察 (学校を巡る近年の状況変化・教員としての子ども観、教育観についての省察) 2. 子どもの変化についての理解 (子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見・子どもの生活の変化を踏まえた課題) 3. 教育政策の動向についての理解 (学習指導要領の改訂の動向等・法令改正及び国の審議会の状況等) 4. 学校内外の連携協力についての理解 (様々な問題に対する組織的対応の必要性・学校における危機管理上の課題) 		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職についての省察(担当講師: 森山 賢一) 学校教育を巡る近年の問題・課題状況を客観的かつ具体的に把握するとともに、その社会的背景についての理解を深める。子ども観と教育観の変遷を辿ることで、自らが抱いている子ども観、教育観、学校教育観を評価する。自らの教職生活を振り返る機会を提供し、教職を取り巻く問題状況を確認するとともに、教員に求められている役割への期待、およびその役割を果たすための資質能力を確認する。 2. 子どもの変化についての理解(担当講師: 田原 俊司) 学校の様々な今日的課題の要因となっている子どもの変化について、発達の視点や特別支援教育の視点から理解するとともに、様々な子どもたちの状況に対応できるための考え方や方法について理解する。 3. 教育政策の動向についての理解(担当講師: 坂野 慎二) 新学習指導要領の総則の趣旨を理解する。その他近年の状況を踏まえ、学校教育政策の動向を理解する。教育政策における近年の法令改正や国際的な動向などを理解する。 4. 学校内外の連携協力についての理解(担当講師: 福本 みちよ) 学校を巡る各種の課題に対し、組織的にどう対応すべきかについて、知識と技法を学ぶ。課題として学ぶ内容は、第一に、学校としての組織的取組を実践する際の、教員のマネジメント・マインドの在り方を理解する。第二に、保護者や地域住民との連携協力を推進し、効果的なコミュニケーションを構築するにはどうすべきかである。第三に、学校における危機管理の現状と課題を整理し、組織的対応のあり方を学ぶ。 		
講習内容	<p>教職についての省察(担当講師: 森山 賢一) 8月1日(水)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校を巡る状況変化 <ol style="list-style-type: none"> ①学校の今日的課題を把握し、その背景を考える。 ②求められる学校教育とは何なのか。世論だけに流されずにその本質を考える。 ③教員が抱える問題を、社会環境の変化、特に保護者との在り方、を中心に考察する。 (2) 子ども観と教育観 <ol style="list-style-type: none"> ①子ども観および教育観の変遷を理解する。 ②社会変化と子ども観および教育観の関係を理解する。 ③子どもと大人の関係、および児童生徒と教師の在り方と教育の在り方の関係を理解する。 (3) 教員の責務と期待 <ol style="list-style-type: none"> ①公教育を担う学校教員としての法的性格を確認する。 ②保護者および国民が期待する教師像を理解するとともに、その背景を考える。 ③専門職たる教師の役割とは何なのかを、おとなの視点だけでなく子どもの視点からもとらえなおす。 		

必修領域：教育の最新事情（つづき）

講習内容

子どもの変化についての理解(担当講師：田原 俊司) 8月1日(水)

- (1) 子どもの発達に関する脳科学、心理学の最新の知見
 - ①「ストレス関連障害や発達障害、動機付け」と脳のメカニズムとの関係についての検討。
 - ②ミラーニューロンと「心の理論」の検討。
 - ③発達障害のある子どもたち（広汎性発達障害、LD、ADHDなど）の実態を理解する。
 - ④発達障害のある子どもへの指導方法を探る。
- (2) 子どもの生活の変化を踏まえた適切な指導の在り方
 - ①不登校・「いじめ」・虐待など子どもたちの今日的な課題の実態と要因を理解する
 - ②子どもたちの生活の変化を踏まえた親子関係の在り方を探る。
 - ③認知療法などの心理療法を含めた適切な指導法を検討する。

教育政策の動向についての理解(担当講師：坂野 慎二) 8月2日(木)

- (1) 学習指導要領改訂等の動向：
 - ①2008年1月の中教審答申「学習指導要領の改善について」の概要
 - ②2008/09年告示の小・中・高等学校学習指導要領の概要
 - ③学習指導要領の総則、各教科等の変更点
- (2) その他の教育改革の動向：
 - 1998年以降の教育政策（中教審等）・法令改正等の概要

学校内外の連携協力についての理解(担当講師：福本 みちよ) 8月2日(木)

- (1) 学校における組織的対応の基盤：
 - ①組織としての学校
 - ②学校組織の一員として求められるマネジメント・マインドの形成
- (2) 保護者・地域住民との連携による学校づくり：
 - ①「保護者・地域の学校参画」という発想の導入
 - ②「保護者・地域の学校参画」の促進
 - ③効果的なコミュニケーションの形成に向けて
- (3) 学校における危機管理上の課題
 - ①学校における安全教育と安全管理
 - ②近年の学校安全に関する政策動向
 - ③保護者・地域との協働による「学校防災機能」の強化

【2日間（12時間）の講習】

1日目

9:20	10:50	11:00	12:30	13:20	14:50	15:00	16:30
講義	休憩	講義	昼食	講義	休憩	講義	

2日目

9:20	10:35	10:45	12:00	12:50	14:05	14:15	15:30	15:50	16:50
講義	休憩	講義	昼食	講義	休憩	講義	休憩	試験※	

■講習の内容

I 必修領域(12時間) 1章45分×15章

※15章すべてを視聴しなければ受講したことになりません。

●テレビ科目(インターネット配信対応)

教育の最新事情	
部	担当講師
第I部 社会の変化と教師の現代的役割 第1章 学校の変容と教職の現代的課題 第2章 社会の変化と教師の役割 第3章 教職専門性の発達	秋田喜代美 (東京大学教授) 陣内 靖彦 (聖徳大学教授) 今津孝次郎 (名古屋大学名誉教授)
第II部 子どもの変化と子どもの理解 第4章 子どもの心理的発達 第5章 子どもの生活変化と生徒指導 第6章 子どもの問題行動と教育相談 第7章 子どもの発達障害と特別支援教育	無藤 隆 (白梅学園大学教授) 住田 正樹 (放送大学教授) 中釜 洋子 (元・東京大学教授) 緒方 明子 (明治学院大学教授)
第III部 教育政策の動向と学校改革 第8章 主要教育法制の改正と学校経営 第9章 学習指導要領改訂と教育課程 第10章 学校組織の運営と管理 —新しい職の創設と学校評価—	小川 正人 (放送大学教授) 市川 伸一 (東京大学教授) 小松 郁夫 (玉川大学教授)
第IV部 学校の危機管理と組織マネジメント 第11章 教師の同僚性と組織的対応 第12章 保護者・地域社会との連携協力と組織的対応 第13章 学校の法律問題 第14章 学校における危機管理	伊藤亜矢子 (お茶の水女子大学准教授) 葉養 正明(国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部長) 坂田 仰 (日本女子大学教授) 渡邊 正樹(東京学芸大学教授)
第V部 現代社会と学校教育 第15章 社会状況の変化と学校教育の課題	藤田 英典 (共栄大学教授)